

〈広場の造形〉

高野山と共に50年

永坂嘉光

写真を撮志したのは、大阪芸術大学に入学後でした。

生まれ育った高野山の持つ歴史や静寂などの神々しさ、四季や行事を、気が付けば約50年間も撮り続けていました。

高野山を開山した空海について、国内はもとより世界においても研究を重ね、出版や発表の機会を与えられ、国内外で高野山の魅力を伝えることができたと感じています。

写真と出会えた大阪芸術大学で、日々変化する時代の中、自己表現を求め、ルネ・ユイグの『見えるものとの対話』等に感銘を受けました。この素晴らしい写真を後進に伝えるため45年間教鞭を執ってまいりました。

おかげさまで様々な活動及び功績を残すことができ、教員生活の最後に特集を組んでいただくことにもなりました。

これも皆様のご尽力の賜物だと感謝し、今後も精進を重ねてまいります。





雲流の朝 — 高野山のシンボル根本大塔を望む



高野山奥の院燈籠堂の護摩



高野山根本大塔と朝日

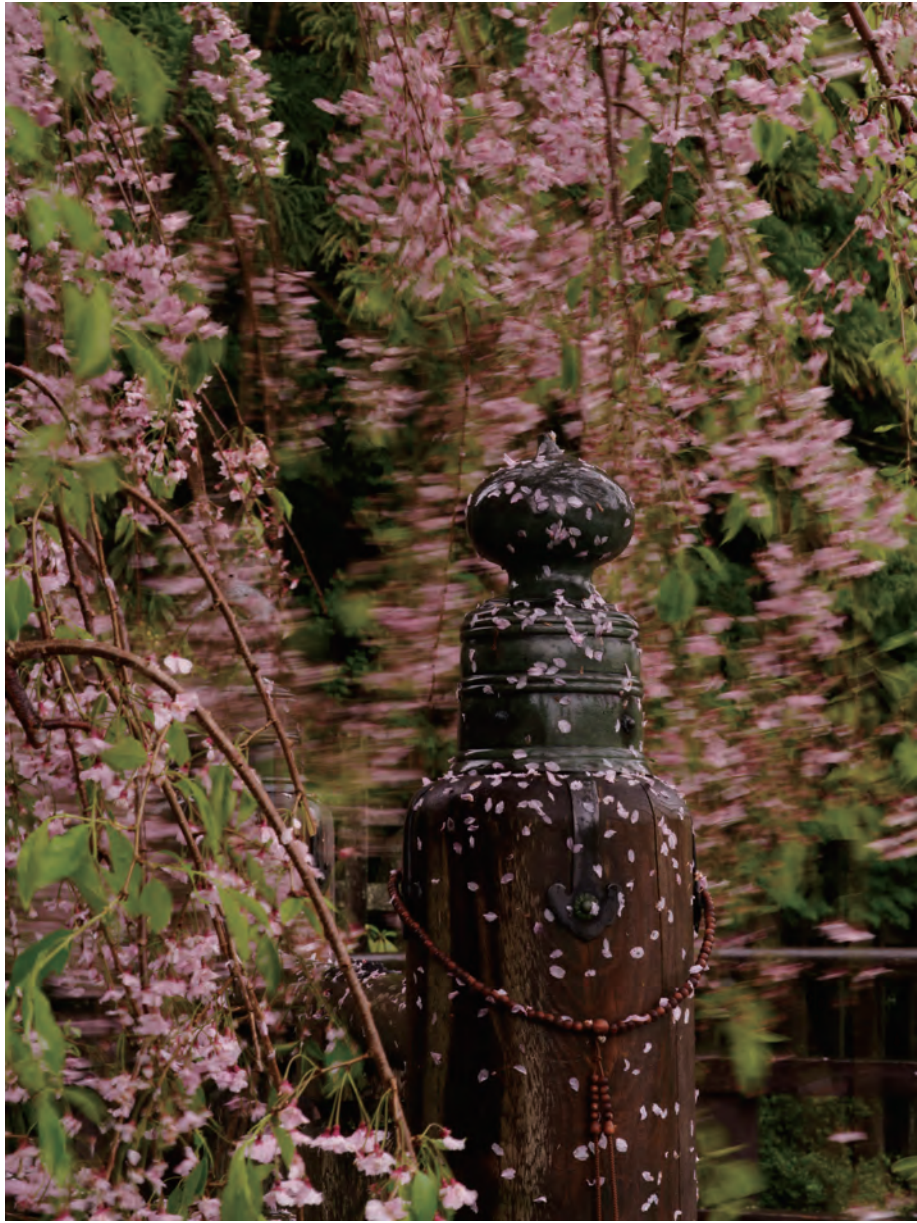




高野山伽藍の森を駆け抜ける修行僧



春の日一清浄八院の前庭



春の日一欄干



奥の院燈籠堂へ入堂する還列



高野山宝寿院 一学修灌頂



総本山高野山金剛峯寺



朝の光 — 高野街道



高野山ー8月13日のろうそく祭



奈良 一天河大辨財天内景



吹雪 一高野山奥の院



吹雪 一約1200年前に入定した空海廟参道



伽藍 — 燈火搖曳